

## 授業方法について独自に工夫していること 【創造科学系】

特に図画工作のような分野は得手不得手の差が大きいので、苦手意識の強い学生はそもそも興味を示さない傾向が強くなります。そこで、学生たちが抱えている図画工作のイメージを崩すようなテーマで授業を展開し、意外な驚き等で興味を持ってもらうように心がけています。

15回の授業を4つの課題で構成している。①は烏口や溝引き、マスキングを用いて、明度に合わせながら絵の具を塗る練習②は丸・正三角形・正方形・直線一本を用いて明度対比を考えながら色面構成を行う③広告写真をトレースしてポスターカラーで彩色する④実物(今年度はキャンディー)を観ながら描写する。①では、丁寧に塗る指導をしている②では、構成の仕方(明度と色相)について指導している③では、画像を色面分割し彩色することで再現できることを実感する④実物を描写し再現することで描くことに苦手意識を無くす基礎的な絵画技法・描写と構成について教えている。

昨年度の授業の反省事項から、グループ学習としての模擬授業の回数を減らし、学生たちが模擬授業を行うのに必要な知識と技能の修得に9回分の授業を行った。授業内容は、モチーフに応じた小筆・中筆・大筆の使い方と観察の方法を学ぶもので、これを修得するとたいいていのが上手に描けるようになる。また、英語による授業であったが、学生とのコミュニケーションに関わる「授業改善のためのアンケート」の結果は、昨年よりも①と回答した学生が増えた。受講学生たちが英語をアウトプットすることに躊躇しないで間違っても気にせず勇気を出して臨んでくれたことが良かったと思う。学生に限らず、絵が上手く描けない殆どの原因は、絵の具を惜しむためであるとわかってきたので、授業中に使用する絵の具は、授業者の教育費から拠出して自由に好きなだけ使えるようにした。

実践場面のVTRを視聴させながら実践上の問題と講義による理論を融合させている。学校現場における最新の課題について講義で取り上げている。最新の課題は、授業者自身が毎年学校現場に行ったり、教員研修で会った県内の教師から収集したもの。また、教育実習を見通して学習指導案の論理を詳細に講義するとともに、実際にシミュレーションで作成させるとともに、これを学生同士ピアレビューさせている。

課題について①個人で記述させ、②グループごとに話し合いをさせ、③シェアリング、④感じたいことや考えたことを記述するという流れで進める。

・今年は猛暑が続いたので、例年になく休憩時間を多く取り入れた。  
・実技テストの内容を最初の段階で明示し、それを意識して反復練習させた。

小学校体育の運動領域は教科書がないため、学習指導要領及び解説を参考にしている。ただし、運動教材を読んでもなかなか授業づくりのイメージがもてないと考えて、3つの工夫としている。

① 事前に次回の内容に該当する領域の体育映像を視聴してくる(Youtubeの文科省デジタル教材)  
② 授業では、担当者が①から事前に考案した20分の運動教材を発表し、意見交換する。  
③ ②での問題点等を整理して、具体的な打開策となるアイデア(教材や授業の進め方等)として、授業映像を視聴する

グループによる学習を多く取り入れながら授業を組み立て、学生が主体的に学べるように努めています。

反転授業を取り入れて、次の時間に向けての課題を出すことを心掛けている。

産業、文化、社会面等の他分野の話題の資料を使って、技術教育を考えることを行いました。

グループワークによる学習を軸にして授業を組み立て、教え合い活動を促すようにした

これらの授業は、小中学校の音楽教員として学校内音楽活動(合唱コンクールや学習発表会、音楽系部活動等)を担うために必要な知識と技術を身に付けるものであるが、広く一般の音楽教育(お稽ごとや一般音楽団体等)に関わる事柄にも興味関心を抱かせるように工夫したつもりである。概ね、受講者には受け入れてもらえたと判断しているが、「難易度が難しすぎる」と回答した者が若干名いたことから、「難易度を落とす、内容を簡単なものにする、課題の量を減らす」等を検討している。しかし安易な方向へ合わせていくことに疑問を感じている。

授業を学生の興味に応じた内容に近づけるため、グループ討議を行い、各自の意見を授業に反映できるようにしている。  
実技のみにならないように、教材を開発する時間と実践する時間に分けて授業を行っている。

両授業ともに、授業記録用紙によりポートフォリオ評価を用いることや、実技体験やグループディスカッションなどのアクティブラーニングを導入している。

学習指導要領の活字情報である形式知を、身体知として身をもって経験する

板書や口頭だけでは理解しにくい事項が多いので、わかりやすい資料の配布。

レジュメ、資料を配付することで、講義内容の記録になり、講義中や復習時活用できるようにしている。  
ほとんど毎時、講義に関する小レポートや、アンケート等を実施し(出席確認のため)、次の講義の前に、解説をしている。

- ・小学校図画工作科の演習中心の授業であるため、具体的で分かり易い授業をこころがけた。
- ・全15回の授業に、絵の具指導、版画指導、デザイン指導、工作指導、道具の使い方などの実技演習はもちろん、学習指導要領や著作権などの知識等も満遍なく取り入れるシラバスを計画した。
- ・後で振り返りができるように、毎時間ごとに資料や文書を作成し配布した。
- ・配布資料や製作した作品を保管するファイルを学生に準備してもらい、「図画工作科ファイル」として一人一冊ずつ作らせた。

水彩絵の具や彫刻刀の正しい使い方を学生に身に付けさせたり、児童の作品の評価のポイントを学ばせたりして、実際に教壇に立った時に困らないような授業を行うことを心掛けた。

初回のガイダンスにて、履修学生に対して、本授業に対するニーズを聞き取ったり、アンケート調査を行ったりして、図画工作科教育の特に「指導法」について求められる内容を集中的に取り扱った。また、履修対象が4年生であり、3年次に主免実習を行っていることもあったため、より教育現場での実践に役立つ内容に特化して授業計画を立てた。1コマの授業の中でも、理論的な講義のみに終始することのないよう、1授業の半分は講義、残り半分は講義で触れた実践的内容をあらかじめ当方が用意した材料・用具を用いて行うように心掛けた。その結果、履修学生には、理論と実践を効果的に学修することができたと思う。その結果は、問1の設問で、①強くそう思う、②ややそう思うの肯定的回答が総計96.4%であること、設問14の③ちょうどいいが100%であることから伺える。その他の設問も、④あまりそう思わない⑤全くそう思わないに該当する否定的な回答を除く総計は全て90%以上であることから、全般的な授業評価は高いといえると判断した。

競技経験を活かした内容を、学生の視点で消化できるように工夫して臨んだ。  
毎回の授業始めに振り返り学習を取り入れる等、学生にとって新たな知見になり得る部分への理解を深められるよう工夫した。  
7月実施の授業では、熱中症対策を施した。

音楽の授業なので、まずは、実際に音を出したり、歌ったり、つくったりすることに積極的に取り組んでもらうこと、そのうえで、音や身体を通して、気づいたり、考えたり、試行錯誤ができるようになることを目指しています。ただ単に音を出す、だけでなく、グループでお互いに聴きあったり、相談したり、他のグループの工夫を取り入れたりする時間を確保するようにしています。

実技の授業になるが、教え込んでできるようにさせるものではなく、学生の個性を引き出せるようにしている。学生の主体的な活動が引き出せるように、2人組の活動を中心にしたり多様な人とペアを組ませ新しい一面を発見できるようにし、身体をダイナミックに動かせるような教材の工夫をしている。

小学校の音楽の授業で児童が学ぶ音楽的課題や内容、学習指導要領に取り上げられている共通教材や共通事項、音楽的要素や仕組みなどを、表現(歌唱・器楽・音楽づくり)や鑑賞の活動をしながら、まず実際に学生さんたちに体験してもらい、音楽そのものの理解や表現力を深めた上で、音楽の授業の組み立て方や進め方、展開方法、指導する際のポイントや留意点などを学ぶことができるように授業を行った。

- ・座学ではなく、アクティブラーニングの授業をこころがけています。
- ・ユニバーサルデザインの授業をこころがけています。

授業の終わりに、全員に振り返りカードを記入させている。その中に、授業内容に対しての自己評価も記入させている。自己評価がCが多ければ、授業方法を改善するようにしている。グループワークを多く取り入れ、主体的な学びになるように心がけている。

活動する時間を多く設け、学生同士で学びあえるようにしている。